

我が日本民族をキリストへ

日本民族総福音化運動協議会

第12号

日本にリバイバルの季節が訪れるのはいつなのだろうか。神は定められた時に、選ばれた器たちを通して働かれる。例えば、日本に対する主の訪れは、これまで少なくとも四回あった。一度目は一五四九年、フランススコ・ザビエルによる日本宣教から始まった。この働きの三八年後には、三〇万人を超える魂が救われた。その後もイエズス会は、一三八人も宣教師を遣わすのである。仏教勢力の圧倒的に強かった日本において、これだけの短期間に魂を得ていったことは、神の驚くべきみ業と言うほかない。二度目は一八五九年、プロテスタントの宣教師へボンによって、横浜を中心にリバイバルが始まり、やがて一八八三年代の、いわゆるミッシヨンスクールにおけるリバイバルに、リンクされていくのである。三度目は一九三〇年に起

こった。中田重治氏を中心とする、ホーリネスのリバイバルである。四度目は一九四五年、日本の敗戦に伴う飢餓と渇きの中からリバイバルが始まった。全国各地の天幕伝道集会は、どこも超満員であったという。私の神学生時代の恩師、滝伍平師（基督兄弟団カナン教会牧師）は、戦前のリバイバル、戦中の弾圧と迫害、そして戦後のリバイバルの証しを、我々神学生に熱く語って下さったのを、今も忘れることができない。五度目はいつであろうか。数年前、アフリカのルワンダから、ロバート・カヤンジャという若い牧師が来られて、リバイバル聖会を持ったことがあった。彼は説教の終わりに、神からの言葉として、「もうまもなく日本にリバイバルの大波がやってくる。」と語った。同様の預言は、ピーター・ワグナー師、シンディ・ジェ

イコプス師、チャール・ヨンギ師を通して語られている。「もう間もなく」とはいつなのか。それは、神様が定められた時に始まる。我々が備えることは、祈りとともに、収穫の時の働き手である。「また、群衆を見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかかわいそうに思われた。そのとき、弟子たちに言われた。収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってください。さうに祈りなさい。」（マタイ九・三十六〜三十八）イエス様がおっしゃるのは、「収穫は多い。しかし働き手が少ない。」ということなのである。働き人が少ないばかりに、みすみす収穫として刈り取ることできるはずの魂を得ることができない。イエス様のお嘆きは、収穫が少ないということではなく、収穫はいくらでもある

イエスさまのお心と

一つになつて

日本民族総福音化運動協議会 理事

マナチャペル 牧師

藤井 克行



のに、それを得ようと刈り入れるところの働き人が少ないということが、イエス様のお嘆きなのである。リバイバルは、魚の方から網に入ってくるような現象が起こる。しかし、訓練されていなければ、その収穫を駄目にしてしまうのである。では、主が求めておられる働き手とはどのような人であろうか。第一、イエス様の目を持つ人である。自分の常識ではなく、自分の思いでなく、自分の考えでなく、目を上げて黄金色に輝いている畑を見ることのできる人がたくさん必要である。目を上げて日本の魂の畑を見るなら、そこには教派とか教団といった塀や垣根は、完全に稲穂の下に隠されて何も見えないはずである。どの教会、教派、教団にいても狭い考えを持ちやすいものだ。特に、自分の流れでないものについては、受け入れるのは難しい。だが、その違いを批判するのではなく、違いを認めて理解し、へりくだらなければ、主の日本に対するリバイバルの季節は遅れるだろう。第二、イエス様の夢を持つ人である。イギリスの神学者ウイリアム・バークレーは、「イエス様には夢がある。その夢とは、すべての人が刈り手となることである。我々クリスチャンには、健康な体と心が与えられている。すべての人を主の収穫として刈り入れるために、我々一人一人が刈り手とならなければならぬ

い。我々一人一人には、それぞれ神に導くことができる人、導かなければならない人が与えられているのである。」と記している。三八節でイエス様は「収穫の主は、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」とおっしゃった。多くの働き手が起こされ、日本の魂を刈り取っている姿を見るべきである。第三、それは主と同じ心を持った人である。そうでなければ、羊飼いの羊のように弱り果てて倒れている人たちが教会に来て、愛を持って受け入れることができないばかりか、逆に傷を負わせることにもなるからだ。教会だけで輝くクリスチャンではなく、世に出て行って、職場、家庭、学校、あらゆる所で地の塩、世の光として輝き、証しとなる働き手が必要である。

「わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。」(Ⅱ歴代七・一四)

私たちの回りには、イエス様の救いを求める人たち、愛を求める人たちが山のようにいる。そのことを私たちは、イエス様と同じ目と、夢と、心をいただいてへりくだり、収穫の主に熱い心を持って、祈り求めて行く者になろう。

《お知らせ》

2007 年度後期

理事・ブロック長会議

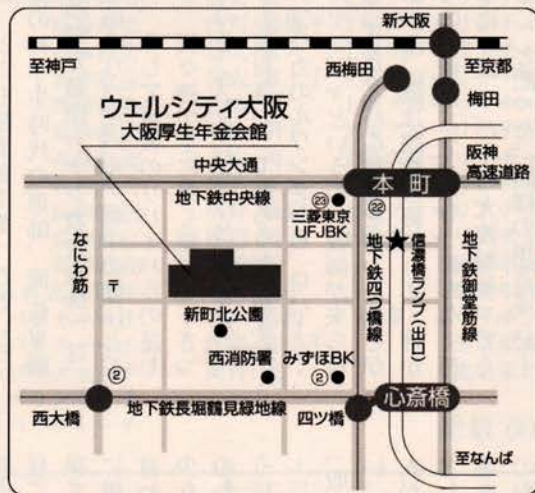
日時■ 2008年1月7日(月)
 14時～理事会(理事のみ)
 17時～食事・懇親会(理事とブロック長)
 18時～ブロック長会議(理事も出席)
 1月8日(火)
 12時～執行部会議

場所■ ウェルシティ大阪(大阪厚生年金会館)
 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目14-15
 TEL 06-6532-6301 <http://kapara.jp/>

オープンセミナー

講師■ 滝元順師
 新城教会主任牧師、
 全日本リバイバルミッション実行委員
 主題■ 「霊の戦いと教会の問題解決力」
 日時■ 2007年1月8日(火) 10時～12時
 会場■ ウェルシティ大阪(大阪厚生年金会館)
 会費■ 1,000円
 ※オープンセミナーはどなたでも参加できます。
 ※お問い合わせは事務局までご連絡下さい。

講師：滝元 順
 1951年生まれ。愛知県新城市にある新城教会主任牧師、全日本リバイバルミッション実行委員、リバイバル聖書神学校常任講師をそれぞれ務める。日本における霊的戦いの実践者、教師として全国の教会に仕えている。近年は、海外での霊的戦いセミナーや聖会の講師としても招かれている。



A C C E S S

- 地下鉄四つ橋線
- 四つ橋駅②号出口より徒歩5分
- 本町駅②③号出口より徒歩7分
- 地下鉄長堀鶴見緑地線
- 心斎橋駅(四つ橋駅②号出口)より徒歩6分
- 西大橋駅②号出口より徒歩5分

ブロック活動レポート 東北ブロック

東北ブロック長

松山裕
(土崎グロリアチャペル牧師)



東北ブロックの働きのためにお祈りを心から感謝いたします。

A 手束正昭副総裁による集会

七月二十六日(木)から三十日(月)まで手束先生を東北に初めてお招きして集会を導いていただきました。

二十六日(木)は、福島県郡山市のキリスト愛の福音教会(坪井永人牧師)でした。多くの方々が参加して下さり、目の覚めるような素晴らしいメッセージに大いに恵まれたのでした。

二十八日(土)は、「日本民族総福音化運動秋田県大会」を、秋田市にある土崎グロリアチャペルを会場に行われました。秋田市内の数名の牧師も参加して下さり、約七十名の集会でした。

聖霊に満たされた手束先生が、普段なかなか聞くことのできないメッセージを語って下さり、心大いに燃やされ、全員で日本のリバイバルのために熱く熱く祈り合いました。また福島や青森で手束先生と数名の牧師達がお交わりができました。心から感謝しています。

B 崔世雄牧師による

東北巡回セミナー

九月五日(水)から十日(月)まで、韓国・仁川にある監理教ヶサン中央教会(会員八〇〇〇名)の崔先生をお迎えして「伝道力アップセミナー」を行いました。

五日(水) 福島県郡山市のキリスト愛の福音教会(坪井牧師)、六日(木) 宮城県仙台市の西多賀バプテスマ教会(高橋清牧師)、七日(金) 岩手県盛岡市の盛岡チャペル(水田賢次牧師)、八日(土) 秋田県秋田市の土崎グロリアチャペル(松山裕牧師)と経巡って下さいました。

各県で近隣の牧師達も参加してくれました。崔先生の大胆でストレートなメッセージに、伝道していかなかったことを示され、悔い改めと新たな決意をさせていただきました。日本の教会、信徒達に聞いてもらい、日本の教会が伝道する教会と変えられることを心から願わされました。東北ブロックの働きのために続けてお祈り下さいますようお願いいたします。

ブロック活動レポート 四国ブロック

四国ブロック長

大川修平
(高知ペンテコステ教会牧師)



「あなたがたのうち、だれが主を恐れ、そのしもべの声に聞き従うのか。暗やみの中を歩き、光を持たない者は、主の御名に信頼し、自分の神に拠り頼め。」(イザヤ五十五:1)

平成十九年八月十一日(土)の十二日(日)の二日間、手束正昭牧師先生を高知にお招きし、「第一回四国ブロック決起大会及び聖会」が、高知ペンテコステ教会(決起大会)と高知クリスチャンセンターを会場にして持たれ、手束牧師先生より「日本民族総福音化運動協議会」の趣旨と日本のリバイバルへの備えのメッセージが力強く、格調高く語られ、参加者一同、大変燃やされました。手束美智子牧師夫人も同席して下さい、大変心温められる、励ましの証しをして頂き、恵まれました。次回の集会は、月曜日(金曜日)の休日のある日を選んで、四国全域の教職者と信徒の方が参加しやすい様に計画を組む予定です。

〔四国ブロック今後の展開〕

「四国ブロック」は、大川修平(高知ペンテコステ教会)がブロック長に、福江義史牧師(高知クリスチャンセンター)が副ブロック長に、今年の春に任命されただけで、今回の決起大会が第一回でした。四国の七十の教会に案内状を送り、協力をよびかけたばかりです。これから組織化が必要です。

私は一九八二年に「日本教会成長研究所」の第一回の研修に参加して以来、『四国ホーリーランド・プラン』を提唱し、四国全ての教会及び牧師先生と協力的交わりを持ち、「四国を日本の聖地(ホーリーランド)にしよう」と呼びかけて参りました。四国四県には約三五〇の教会がありませんが、これを三倍の「千の教会」にすべく祈り、協力しています。四国には弘法大師空海をはじめ、宗教的指導者が多く輩出されていますが、それが四国を偶像の地として、悪霊の働く地としています。今こそ、日本のリバイバルと共に、四国のリバイバルを真剣に求めて参ります。お祈り下さい。